

令和3年度 江戸川区立北小岩小学校 学校関係者評価 最終評価用報告書

| | | | |
|--------------------------|---|-------------------------------------|---|
| <p>学校教育目標</p> | <p>○心豊かでやさしい子 ○よく考え表現する子 ○体をきたえ元気な子</p> | <p>目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像</p> | <p>○「誠実さ(品位)・情熱・自律(規律)・結束・敬意」の5点を軸に教育活動を常に評価・検証し、主体的に業務改善に努める学校 ○個性を生かし「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を獲得する児童 ○自己研鑽と研究・研修に励み、豊かな人間性、広い社会性、高い専門性を身に付け、教育課題の解決に努める教師</p> |
| <p>前年度までの学校経営上の成果と課題</p> | <p><成果> 学力向上…全国学力調査において、国語科、算数科ともに東京都、全国の正答率を上回った。都学力調査において、国語科、算数科、社会科は東京都の正答率を上回ったが、理科は東京都の正答率を下回った。(R元年度) 指導力向上…体育科(体づくり運動)の校内研究を実施し、年間指導計画と評価規準の再編、授業力の向上を実現できた。 <課題> 体力向上…昨年度と比較し、都や全国の体力合計点を上回る学年が減少した。体育科の授業改善、全校運動遊びの見直しを図る必要がある。また年間を通して怪我の増加が目立った。安全面の指導の充実も図る。江戸川区教育委員会指導室が掲げる重点事業に対する理解を深め、一層の充実を目指すとともに、校務改善を通して働き方改革を図っていく必要がある。家庭・地域とのより一層の連携。家庭・地域への情報発信。</p> | | |

| 教育委員会重点課題 | 取組項目 | 評価の視点 | 具体的な取組 | 数値目標 | 自己評価 | | | 学校関係者評価 | | 来年度に向けた改善策 |
|--------------|---------------|--|--|----------------------------|------|---|---|---|---|--|
| | | | | | 取組 | 成果 | 成果と課題 | 評価 | コメント | |
| いきいきと学ぶ学校づくり | 確かな学力の向上 | 補習の実施や東京ベシックドリルの活用によるきめ細やかな指導の充実と授業力の向上 | 校内教員による補習教室…年25回以上 外部委託による補習教室…年120回 東京ベシックドリル診断シート…年3回 | 東京ベシックドリル 正答率 80%以上 | B | B | ○計画的な補習教室や診断テストの実施。 ○補習により、底辺層に一定の成果。 ●算数科以外の課題のある児童への対応。 ●改善策(延長学習補習)と学習担任との連携 | B | 子供たちの学力向上に向け、きめ細やかな指導や補習等に力を注いでいただいていることは有り難い。正答率も80%をこえるのは難しいようなので今後(期待)したい。 | |
| | 読書科の更なる充実 | 学校図書館の整備・活用の推進や探究的な学習の充実、学校司書教諭、校内教員による授業研修会の充実 | 探究的な学習…年2回以上 学校図書館を活用する授業…週1回以上 授業研修会…年2回以上 | 児童アンケート 肯定的な回答80%以上 | C | C | ○職員全体で学校図書館の研修導入促進への参加による計画的な必要図書への購入。 ●リクエスト・マネジメントの視点を活かした各教科との位置づけの見直し。 ●読書科の指導方法のさらなる充実。 ●読書科の定期的な評価、進捗の把握 | B | 今年度探究的な学習を推進し、学校図書館も活用しているようである。児童の肯定的な評価も高いので来年度も継続していただ | |
| | 体力の向上 | 体育の授業や休み時間における主体的な運動の実施による運動意欲の向上 | 運動遊びの実施…年25回以上 学校図書を活用する授業…週1回以上 コーディネーション運動の実施 | 体力テスト体力合計点 全学年で東京都を上回る | B | B | ○コロナ禍における体育指導法、全校運動遊びの方法の工夫による、児童の運動機会の保証。 ○体力テストは1,2,3,4,6が目標達成。 ●たてよ班での運動遊びの実施 | B | 新型コロナウイルスの影響で外で元気に遊ぶ機会が減ってしまったのは残念である。その中でも体力テストで好成績を残したのはよかった。 | |
| | オリパラ教育の推進 | 「オリンピック・パラリンピックレガシー創造プラン」の3つの視点を踏まえた取組の充実 | オリ・パラコーナー更新…学期2回以上 オリ・パラ朝会…月1回 | 児童アンケート 肯定的な回答80%以上 | D | D | ●オリパラコーナーの継続的な更新。 ●レガシー教育を教育課程上に明確に位置付け、実施する。 | C | パラリンピックの感染が実現できなかったのは残念である。レガシーをつないでいってこれることを望む。 | 今年度までの資料を活用し、レガシーについては来年度以降も意識して継続していく。 |
| | 外国語教育の推進 | ALTの有効活用による「生きた英語」に触れる機会の充実とコミュニケーション力の向上 | ALTと児童との会話…毎時間1回以上 実践推進校による授業研究への参加…年2回 クラスルームイングリッシュの導入・更新…学期1回以上 | 児童アンケート 肯定的な回答80%以上 | C | C | ○ALTとの授業の事前打ち合わせの定着。 ●児童が連んで外国語に取り組む手立ての考案。 ●高学年のライティングに対する苦手意識克服に対する困難な手立ての考案 | C | 先生方が楽しく外国語にわかる方向で授業していただいていることが分かった。来年度アンケートにも反映してくれることを願っている。 | 学校で外国語担当を中心に研修等を実施し、校内のペースアップを図り、学校での取り組みを校外に発信してい |
| 特別支援教育の充実 | 健全育成に向けた取組の強化 | 児童の生活習慣や情報モラル意識の向上 | 児童アンケート 肯定的な回答80%以上 「Q-U」学級満足度 要支援群出現率 10%未満 | B | C | ○ふれあひ月間の取組を全クラスで実施。 ●1人1台TPC配布に伴う、児童・保護者向けの情報モラル教育、講演会の充実。 | A | 大きな生活指導上の問題もなく、落ち着いた生活できているようである。学校が丁寧に対応してくれているのがよわかる。 | | |
| | 特別支援教育の推進 | ・校内委員会の活性化を図ることなどによる指導・支援の充実 ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の充実 | コーディネーター、特別支援指導担当教員、外部講師による特別支援教育研修…学期に2回以上 | 「Q-U」学級満足度 要支援群出現率10%未満 | B | B | ○研修により個々の理解の深勃。 ○リモートやオンラインの活用による研修の幅の広がり。 ○不登校児、保健室登校児に対する個別の受け入れ、教室への復帰の手立ての実施。 ●不登校児、保健室登校児へのより効果的な支援方法の検討(エンカレッジルームの活用等) | B | 特別支援教室の先生による情報発信や理解を進めるための授業などの取り組みには驚いた。子供より保護者や大人の意識が変わってない感覚もあるので、今後大人への啓発活動もお願いしたい。 | |
| 教員の資質向上 | 児童理解の充実 | | スクリーニングシートの実施・情報共有…学期1回以上 | 「Q-U」学級満足度 要支援群出現率10%未満 | B | B | ○学校全体で課題を抱える児童の支援の方向性を共有、実施。 | A | 子供の様子を学校全体で見守っていてありがたい。今後も小さな問題のうちに解散してほし。 | |
| | 教員研修の充実 | ICTアシスタント、情報リーダーによる校内研修の実施によるICTを活用した教員の授業力の向上 | タブレットを活用した授業回数…1日1回以上 GIGA研修…月1回以上 | 児童アンケート 肯定的な回答90%以上 | A | B | ○月に2回程度のGIGA研修によるタブレット端末を活用した授業力の向上。 | A | 子供たちがタブレットを自由に使いこなしているのに驚いた。先生方の機器が子供と同じになって指導しやすくなることを望む。 | |
| | 校内研究会の充実 | 新学習指導要領に基づいた体育科の授業改善、教員の授業力の向上 | 授業研究会…年6回 相互授業観察…一人1回以上 | 児童アンケート 肯定的な回答90%以上 | B | B | ○課題実践推進校発表を経て授業の改善、研究内容の深まり。 ●全校運動遊びのより一層の充実 ●研修、個に応じた指導の充実 | B | 体育の発表が盛会に終わったようであり何りである。今後も研修を重ねてほしい。 | |
| 特色ある教育の展開 | 若手研修会の充実 | 主幹教諭・主任教諭から若手教員への研修会の実施による学習指導・生活指導力の向上 | 授業研究会…一人月1回以上 | 東京ベシックドリル 正答率 80%以上 | B | B | ○主幹・主任の授業公開、生活指導、保護者対応等の研修の計画的な実施。 ●若手の授業公開の機会の充実。 | B | 組織で人材を育成する大変さはよくわかる。中堅の先生方の活躍に期待する。 | |
| | 人権教育の充実 | 「なかよし班活動」「人権の花運動」への取組による畏敬の念や思いやりの心の育成 | なかよし班活動…月1回以上 ロングなかよし班活動…2学期以降月1回 人権の花の栽培…年間継続 | 児童アンケート 肯定的な回答80%以上 | B | B | ○上級生の下級生に対する思いやり心の意義。 ○感染状況によった柔軟性のある計画や内容の変更。 | A | 人権の花活動などに取り組んでいるのは素晴らしい。どの学年も仲良くできているようである。 | |
| | 小中連携教育の推進 | 「小中連携教育構想」及び「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実 | 連携プログラムの見直し…年2回 小中連携型生活指導指針(N・W・F)の作成・見直し…年2回 | 児童アンケート 肯定的な回答90%以上 | D | D | ●一人一台タブレット端末の活用を踏まえた基本習慣のスタンダードの見直し。 ●各教科の連携教育プログラムの見直し。 | D | 中学校と連携は難しかったようである。来年度連携ができるようになることを願う。 | 新型コロナウイルスの関係もあるが、可能な限り連携を行って、教務主任を中心に連携教育プログラムの見直しも行う。 |
| | 俳句指導の充実 | 俳句指導による思考力・表現力の向上 | 俳句の作成…年4回以上 句会…年2回以上 俳句コーナーの更新…年4回以上 | 児童アンケート 肯定的な回答80%以上 | A | A | ○本校の特色ある取組としての通年わたる計画的な指導、作品展への応募。 ●児童の興味・関心のさらなる喚起。 | A | 俳句の指導は伝統となっていて素晴らしいと思う。俳句集の作成も継続していただいているので今後お願いしたい。 | |